



中島来章《春秋花鳥図》(右隻) 嘉永5年(1852)

# 桜と春らんまん コレクション展 4

日本人は古来より、桜の開花を待ち焦がれ、満開の桜に酔いしれ、散りゆく桜に名残惜しさを感じてきました。このように、人々の心象に大きな影響を与える桜は、日本の春を象徴するとともに、大和心を反映した特別な花として、多くの人々に愛され続けています。そのため、詩歌や絵画、意匠などにも盛んにとりあげられ、多彩な表現で我々を楽しませるようになりました。

今回のコレクション展では、こうした桜を題材とした日本画を中心に据え、美しい春の光景を様々なシチュエーションで紹介します。第一章「桜人」では、桜を愛でる人、鑑賞する人や場面を描いた作品を、第二章「鳥語花香」では、春を告げる鳥の声や花の香を感取できる作品を、第三章「柳緑花紅」では、自然のままの春の風景を写した作品を展覧し、一足早く春の到来を祝います。

また、特集展示として「横山大観と日本美術院」を開催し、日本美術院の設立時から五浦時代、再興へと向かうまでの初期の様相を、大観とその周辺作家たちの作品で振り返ります。



横山大観《夜桜》昭和27年(1952)



上村松園《花の夕》大正5年(1916)頃



池上秀畝《春曉雉子》大正5年(1916)



竹内栖鳳《春昼図》明治43年(1910)頃



二階堂美術館への  
アクセス

● JR日豊本線「日出駅」下車 徒歩3分  
● 大分交通バス「堀」停留所下車 徒歩15分